

平成26年度 スーパー食育スクール事業 事業結果報告書

都道府県名	山口県
学校名	防府市立華城小学校
学校のホームページアドレス	http://www.c-able.ne.jp/~hanagies/index.html

1 取組テーマ

「子供の力」を引き出し、未来を拓く食育
～学校・家庭・地域で取り組む食生活の改善～

2 栄養教諭の配置状況

栄養教諭配置年 及び人数	平成20年	2人（平成26年度）
配置されていない 場合の対応状況	—	

3 推進委員会の構成

委員長	御神本実	山口県教育庁学校安全・体育課長
委員	弘津公子	山口県立大学看護栄養学部栄養学科准教授
委員	石本真司	防府市立華城小学校 PTA 会長
委員	歳弘咲代	華城コミュニティ推進協議会婦人部長
委員	久門浩之	J A防府とくぢ係長
委員	長田香代子	防府市立国府中学校栄養教諭（桑山中学校食育担当）
委員	原田彩子	防府市立国府中学校栄養教諭（華西中学校食育担当）
委員	小野素子	防府市立華城小学校校長
委員	藤田淳史	防府市立華城小学校教頭
委員	田中敦子	防府市立華城小学校栄養教諭
委員	宮田佳奈	防府市立華城小学校栄養教諭
委員	笹井規子	防府市立華城小学校養護教諭
委員	久保久美子	防府市立華城小学校教諭（保健主任）
委員	吉鶴 修	防府市教育委員会学校教育課長
委員	木原正恵	防府市教育委員会指導主事（食育担当）
委員	宮木明美	防府市健康増進課保健係主査（食育担当）
委員	鹿児島久美子	山口県健康福祉部健康増進課主任技師
委員	相川智幸	山口県教育庁学校安全・体育課教育調整監
委員	高橋ゆふ	山口県教育庁学校安全・体育課指導主事（学校給食担当）
委員	福田哲郎	山口県教育庁学校安全・体育課指導主事（食育担当）

4 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
山口県立大学看護栄養学部栄養学科	調査、評価、調査結果の集計・分析、報告書の作成、指導・助言 等
華城コミュニティ推進協議会	料理教室開催、ふれあい祭りの運営 等
食生活改善推進協議会	土曜授業日や親子料理教室における講師 等
株式会社丸久	児童考案の惣菜の商品化

株式会社シマヤ	体験活動の講師、食料の生産・加工・流通についての学習支援 等
J A防府とくち	
大平食品（豆腐工場）	
防府市公設青果物地方卸売市場	
グリーンセンター日進	
N P O 法人霧島食育研究会	視察受入、食育講演会における講師

5 実践内容

事業目標
朝食内容の改善：「栄養バランス」のよい朝食を食べる児童の割合の向上 家族で食事をする「共食」の機会の増加
学力向上：「全国学力・学習状況調査」・「山口県学力定着状況確認問題」・ 「やまぐち学力支援プログラム」における平均正答率の向上 学習規律の確立・学習習慣の定着

評価指標
①朝食の栄養バランス ②家族と一緒に食事をする児童の割合 ③学習習慣・学習意欲・学習態度 ※全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、学力向上の基礎となる学習意欲を高めることや望ましい学習態度の形成、学習習慣の定着を指標とすることにした。
評価方法
①②朝ごはん調べ ③生活アンケート、学校評価（児童アンケート） ※全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、学力向上の基礎となる学習意欲を高めることや望ましい学習態度の形成、学習習慣の定着について、生活アンケートを実施するとともに、毎年行っている学校評価の児童アンケートを活用して評価することにした。



評価指標を向上させるための仮説(道筋)
食に係る生産や調理などの体験学習や、生産者や食生活改善推進員等との交流を充実させていくとともに、家庭や地域に情報を発信していくことをとおして、朝食の内容充実（栄養バランスのよい食事）、家族と一緒に食事をする児童の割合向上、学習習慣の定着、学習意欲の向上、望ましい学習態度の形成をめざす。 そのために、朝ごはん調べ、生活アンケートを行うとともに、学校評価の児童アンケートを活用し、食育の取組が食生活及び学力に与える効果について検証する。



実践内容
○具体的な取組
1 実践校における実践研究
(1) 教科等における食に関する指導
①栄養教諭や養護教諭の専門性を生かした授業
②栽培・生産・調理等の体験学習（生産者団体や企業等の協力）

(1) ②味噌業者による味噌作りの指導
(1) ②豆腐業者による豆腐作りの指導

- ③生産地等の見学
- ④ICTの活用（家庭科等における調べ学習 等）
- ⑤先進地等視察を生かした体験学習
（自分で削った鰹節で出汁をとり、みそ汁をつくる）
- (2) 給食時間や掲示等による学校給食を活用した指導
 - ①給食時間の栄養教諭による指導（ICTの活用）
 - ②「はなぎ元気っこ汁」の給食での提供
 - ③献立計画や食に関する年間指導計画に合わせた食育掲示板の活用
- (3) 家庭・地域と連携した食育の啓発
 - ①「土曜授業日」を活用した食に関する学習
 - ②「はなぎ元気っこ汁」の募集
 - ③「はなぎ食育新聞」の作成・配付
 - ④食育料理教室「ワン・ツー・スリーで作れる『かんたんおめざめレシピ』」
 - ⑤未来の華城っ子を育てる～食育講演会
講師：千葉しのぶ（霧島食育研究会代表）
 - ⑥友愛セール（PTAバザー）にだし試飲コーナーを設置（PTA）
 - ⑦「華城すこやかふれあいまつり」で6年児童が考案した「おすすめおかず」を販売
 - ⑧毎月「食育だより」を作成・配付
 - ⑨「元気はなぎっこレシピ集」の発行



(1) ⑤鰹節削り体験



(3) ①PTAボランティアと食生活改善推進員による指導



(3) ⑤食育講演会



(3) ⑨授業や料理教室等で蓄積されたレシピをまとめて配付



(3) ⑦児童が考案したおかずを業者が商品化し、地域のまつりで販売

- (4) 効果検証のための調査・アンケート
 - ①朝ごはん調べ
 - ②生活アンケート
 - ③学校評価（児童・保護者）
- (5) 先進地等視察（鹿児島県枕崎市及び霧島市）
 - ①枕崎お魚センター：出汁とり体験
 - ②枕崎市立枕崎中学校：実践事例発表「お弁当の日」の取組について
 - ③的場水産株式会社：鰹節生産工程見学
 - ④NPO法人霧島食育研究会：講話
- (6) 食育推進委員会の開催
 - 内容：報告①防府市立華城小学校における取組について
 - ②防府市立華城小学校における各種調査について
 - 協議①児童・家庭・地域への波及効果について
 - ②目標達成に向けた実践内容と調査の在り方について

③栄養教諭の配置の成果について

2 食育推進の効果検証に係る調査・研究（大学）

(1) 実践校における食育の取組の効果検証

- ①調査データの集計、分析、検証
- ②食育推進委員会における調査結果報告及び指導・助言

(2) 「やまぐちっ子食育推進連絡協議会」における指導・助言

- ①実践校の取組効果について
- ②学校・家庭・地域が連携した食に関する指導の進め方について

(3) 報告書（CD）の作成

- ①実践校の取組について
- ②実践校における調査と結果について

3 「やまぐちっ子食育推進連絡協議会」の開催

(1) 全体会（全2回）

- 出席者：学識経験者（大学）、県PTA連合会代表者、生産者団体代表者、
県健康増進課食育担当者、実践校校長・教頭・栄養教諭、
市町教育委員会食育担当者、市町代表栄養教諭等、
県教育庁学校安全・体育課課長・教育調整監・指導主事
- 第1回内容：事業説明・協議「学校・家庭・地域と連携した食育の推進について」
- 第2回内容：事業報告
協議「学校・家庭・地域と連携した食育推進上の課題と今後の方向性」

(2) 市町部会（全21回）

- 出席者：開催市町栄養教諭・学校栄養職員・食育担当者及び学校給食関係者、
開催校校長・教頭・教諭等、開催市町教育委員会指導主事、
県教育庁学校安全・体育課指導主事
- 内容：実践校の取組テーマに関わる各地の取組事例の収集
・県教委の事業説明 ・事例発表又は研究授業 ・研究協議

6 成果

1 朝食内容

土曜授業日を活用した食育授業、教科等の学習等を通じた、バランスのよい朝ごはんの摂り方に関する児童への指導とともに、料理教室や食育講演会の開催、食育新聞や食育だよりの配付、朝食レシピの募集等を通じた家庭への啓発を行ったところ、5月と11月で朝食内容に大きな変化は見られなかった。調査の実施時期や方法等の検討が必要と考える。【表1】

	5月	11月
①黄のみ	14.5%	16.0%
②黄+赤または黄+緑	6.3%	10.7%
③黄+赤+緑	10.8%	10.8%
④黄+赤+緑+その他 (果物、乳製品、菓子類含む)	30.1%	26.8%
⑤黄+赤+緑+その他 (果物、乳製品)	25.2%	21.9%
⑥黄+その他	13.1%	13.8%

2 家族と一緒に食事をする児童の割合

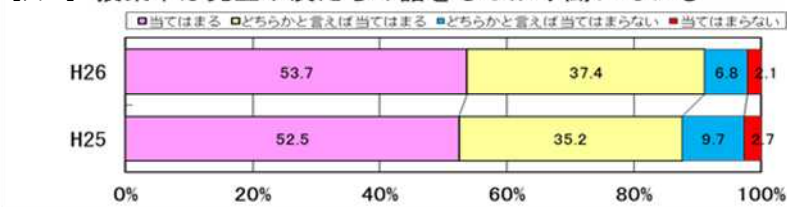
朝ごはん調べに「朝ごはんをだれと食べましたか」という質問を設定し、家庭への啓発を図ってきたところ、5月に比べて11月の方が家族全員で食べた児童の割合が減り、一人で食べた児童の割合が増えた。このことが朝食内容にも影響を与えているように見受けられるので、啓発の方法について検討が必要と考える。【表2】

	5月	11月
家族全員で食べる	23.8%	18.8%
誰かと一緒に食べる	66.3%	66.7%
一人で食べる	9.9%	14.5%

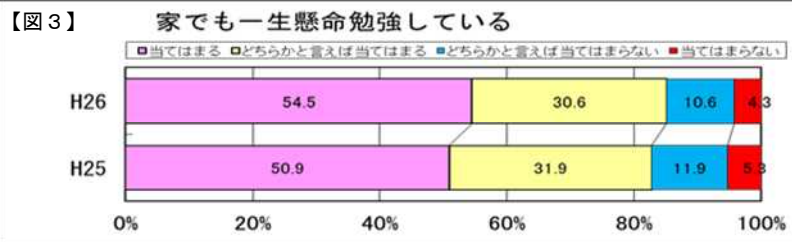
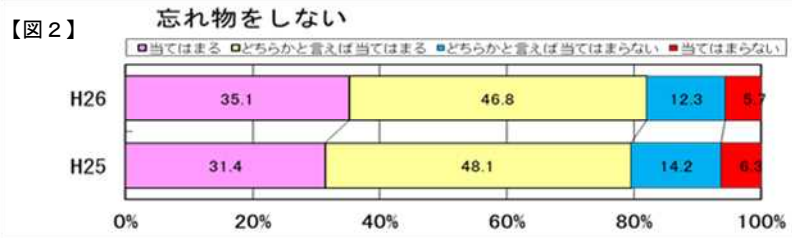
3 学習意欲・学習態度・学習習慣

給食時間や各教科等における食に関する指導、食育だよりに通じた啓発を行い、児童や保護者に対して朝食と学力の関係に

【図1】授業中は先生や友だちの話をしっかり聞いている



ついて意識付けを図ってきたところ、学校評価の児童アンケートの「授業中の話を聞く態度【図1】」、「忘れ物【図2】」、「家庭での学習習慣【図3】」において改善が見られた。



また、生活調査では朝食を摂取する児童は摂取しない児童に比べ、「1時間目から学習に集中する」が4.69倍、「授業中眠くなることがありますか」が4.8倍、「自分にはよいところがありますか」が5.46倍、評価が良くなることが観察された。【表3】

【表3】生活習慣並びに食生活と学習行動との関係 (オッズ比) n=518		生活習慣		食生活	
		朝食摂取	就寝時刻	共食	孤食
心の安定意欲	いつも朝のあいさつが元気にできますか	-	1.13**	-	-
学習意欲 集中力	1時間目から学習に集中していますか	4.69*	4.60**	-	-
	授業中ねむくなることがありますか	4.80**	2.00**	0.54**	-
学習意欲	苦手なことでもがんばっていますか	-	3.48**	-	-
自尊感情 自己肯定感	自分にはよいところがあると思いますか	5.46**	2.45**	-	0.33*
	将来の夢や目標をもっていますか	-	2.25**	-	0.34*
心の安定	友達と仲良くしていますか	-	4.27**	-	-

*は、5%未満で有意

**は、1%未満で有意

多変量ロジスティック解析

7 スーパー食育スクール事業の取組状況の情報発信

- ・「はなぎ食育新聞」「食育だより」等で家庭や地域に向けて学校の取組を発信している。
- ・「やまぐちっ子食育推進連絡協議会」で取組やその結果について県内に報告した。
- ・実践研究報告書（CD）を作成し、県内学校、各市町教育委員会、各都道府県教育委員会等へ配付した。
- ・山口放送のテレビ番組「はつらつ山口っ子」で県内に取組を紹介した。
- ・教職員向け教育情報誌「News letter～山口県の教育～」で県内の学校へ発信した。
- ・「第65回全国学校給食研究協議大会（山口市）」で展示物を作成し、来場者に紹介した。
- ・学校ホームページで給食の献立や食育の取組を広く情報発信している。

8 今後の課題

- ・防府市立華城小学校の取組により、学校が地域の食育の中核となり、積極的な情報発信を行っていくことで、地域と連携した食育の推進が可能となることが証明されたので、県内全域に広めていく必要がある。
- ・食育の効果を検証するための調査内容や方法について検討を行い、計画に位置付けておくことが必要である。また調査結果を、児童、保護者、教員とで共有しておくことで、改善に向けて努力が可能になるため、迅速な処理を行う方法を検討する必要がある。
- ・子どもの孤食が朝食内容に与える影響について、時期や回数を検討して調査を行うことが望ましいと考える。また、孤食を避ければ、自尊感情や自己効力感が上がるという可能性も示唆されたが、今回の調査だけでは詳細な検討が不可能である。調査内容や方法について検討が必要である。